

海の浸食により石の硬い部分だけが残った橋杭岩。熊野を代表する観光名所だ。  
台風が来れば岩を越えるほどの高波が寄せる(和歌山県串本町)



石段を登り詰めた先には、熊野の神々が最初に降臨したと伝わる巨大なゴトビキ岩と  
新宮を一望する景色があった(和歌山県新宮市)

Wonders  
of the  
Great Rocks

熊野

マグマが生んだ奇観

和歌山県や三重県などにまたがる熊野地域も巨石・奇岩の宝庫だ。こちらはさらにスケールが大きい。

まずは橋杭岩(和歌山県串本町)。海岸に850mの列をなして大小40余りの岩の柱がそそり立つ。ほぼ一直線に並び、橋脚のように見えることが名の由来だ。昇る朝日を背景にしたこの岩の姿は県や地域を代表する景観、海の絶景といえる。最も高いのは20m近くあるだろうか。中には拜んでいる僧侶の姿にみえるものもある。切り立った岩が並ぶさまは、まるで恐竜の背びれのような。潮が引けば歩いて近くまで行ける。周りには砕けた石がゴロゴロしている。これらは江戸時代の巨大地震による津波で運ばれてきた塊といわれる。

恐竜やその卵を連想させるような巨石もある。それがゴトビキ岩(和歌山県新宮市)だ。ゴトビキとはこの地域の方言でヒキガエルのこと。熊野三山のひとつである熊野速玉大社の元宮である神倉神社のご神体だ。山の中腹にあり、源頼朝が寄進したと伝わる500段余りの急峻な石段を登ってやっとたどり着く。神倉神社の石段は熊野の古道中の古道。恐怖もあるが、乗り越えて登れば得るものがある。と速玉大社の禰宜の濱中孝成さんは言う。

社殿にのしかかるようなゴトビキ岩は強烈な存在感を放つ。むき出しの丸い岩は巨石と言った方が似合いそうだ。「だいたい2つに分かれ、手前が大きなのは高さ11m、幅9mほどある」(濱中さん)。上から3分の1あたりにしめ縄が巻かれ、それより上は全体に黒く、下は白っぽい。触るとひんやりと冷たい。「でかい」「半端ない」「オーラを発している」。参拝客は一樣に驚きを漏らしていた。

「ゴトビキ岩が男性で、こっちが女性と対比して言う人もいる」と話すのは、花の窟神社(三重県熊野市)宮司の山川均さん。神々の母であるイザナミノミコトらをまつこの神社は、高さ45mもの巨大な岩がご神体だ。「社殿はなく、ご神体を目の前に拜んだり、触れて一体となったりできる。熊野の自然崇拜の神髄がここにある」と熊野市文化財専門委員長の三石学さんは説明する。中心部のくぼみが陰陽の陰の部分で、陽のゴトビキ岩と対をなしている。岩肌が白いのには女性の神さまだからか。ゴトビキ岩よりも軟らかく質が異なる。大阪市から初めて訪れたという50代の女性は「圧巻です」と見上げ続けた。通常なら巨岩の上から渡す大綱だが、コロナ禍でその神事ができないため、境内の低い位置に張られていた。

神体の穴に頭を入れるとゴーツという響きが聞こえた。波の音でも、車の音でもない。「神さまの音」と山川さんは話した。

熊野には巨石・奇岩が数多く、行けばそれぞれの巨石や大地の成り立ちを知ることができる。

南紀熊野ジオパークセンター(和歌山県串本町)によれば、日本列島が今の位置に定まった1400万〜1500万年前に紀伊半島で巨大な噴火があり、その上にあった地面が陥没、リング状の割れ目から大量のマグマが噴き出した。カルデラ噴火と呼ばれるエネルギーの爆発だ。マグマはやがてその通り道や地下で冷えて固まり、火成岩となった。そして大地の隆起や風化、浸食などで地表に姿を現したそれぞれの巨石はその後も風化などで変化を重ね、長い年月を経て、現在の姿になったという。

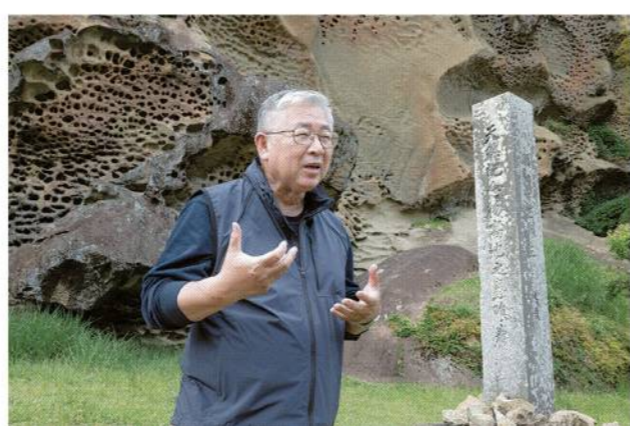
同センターなどでガイドを務める神保圭志さんは「橋杭岩やゴトビキ岩は流紋岩、花の窟や同じ熊野市にある鬼ヶ城、獅子岩といった巨岩は流紋岩質火砕岩でできている」と説明する。流紋岩質火砕岩は以前は凝灰岩などと呼ばれる。同じ種類の岩からできていても形や色などが異なる点がユニークだ。ゴトビキ岩では、熊野カルデラの痕跡をたどるツアーの参加者に出会った。

古座川の一枚岩、高池の虫喰岩と呼ばれる2つの巨石が同じ和歌山県古座川町にある。一枚岩は地上に出たひとつの岩としては国内最大級で、高さ100m、幅500mもある。全体に焦げ茶色で、その平たい岩壁をスクリーンに見立て、地元では映画を映すイベントなども計画している。一方の虫喰岩は表面に多数の穴が空き、虫が食い散らかしたような風貌だ。高さ約35m、幅

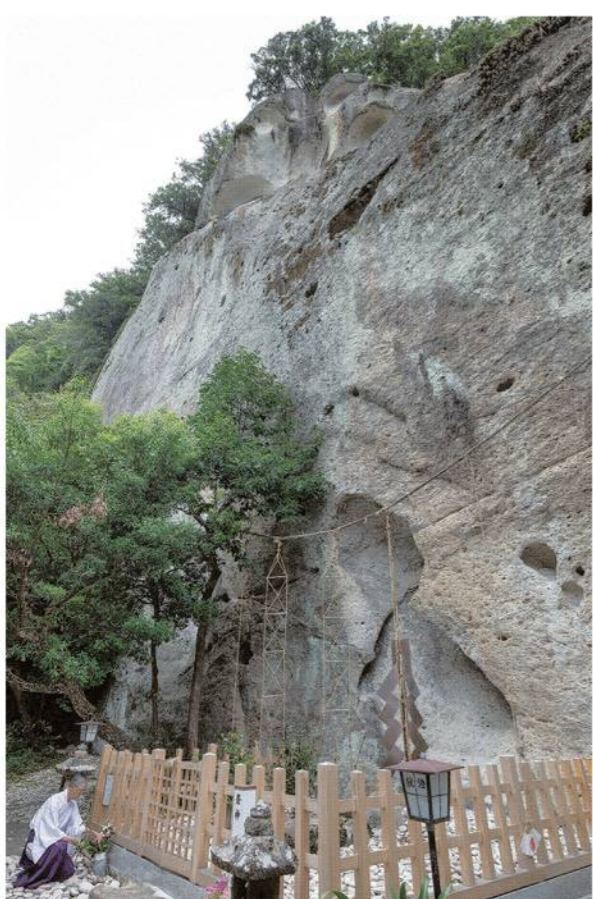
約85mとこちらも大きい。黄色っぽいゴツゴツしている。実は2つとも種類は同じ流紋岩質火砕岩。風化や浸食による削られ方の違いが異なる見た目を生んだ。

神戸大学客員教授でマグマの専門家である異好幸さんは「熊野の巨岩は巨大カルデラ噴火という地質学的大事件によって形成されたもので一見の価値がある」と話す。巨石好きには岩石の種類より見かけ重視の人が多いようだが、「なぜここにこんな大きな石があるのか」「どうやってこの石ができたのか」などと考えるのも楽しい。「火山活動によってもたらされた奇岩・巨石の近くにはよい温泉があることも多い」(異さん)。巨石巡りのもうひとつの楽しみといえそう。

土井誠司  
竹邨章撮影



虫喰岩の一面の穴は「風化によってできた自然の芸術」と三石学さんは説明する(和歌山県古座川町)



花の窟神社の巨大なご神体。日本最古の神社といわれる同神社に社殿はない。古来の自然崇拜の遺風を残すとされる(三重県熊野市)